

CLIPPER

快速艇

No.128 2022 令和4年7月21日



ごあいさつ

PTA会長 明石 智機



日頃よりPTA活動にご理解、ご協力をいただいております事に御礼申し上げます。

二〇二〇年一月、国内初の新型コロナウイルス感染が確認されて以来、感染拡大予防の為、私たちの生活様式は大きく変化し、いろいろな活動が制限され、縮小や中止が余儀なくされてきました。昨今では「withコロナ」いわゆる新型コロナウイルスという風潮に変わってきており、本校でも今年度は少しずつ学校行事や活動を再開していく方針と聞いております。

先日の体育大会は、三年ぶりにご来賓や保護者の方も観戦出来る状況で開催が出来ました。目まぐるしく変化していく現代において、変化を進化の機会として前向きに捉え、いろいろな人や物事に感謝することで未来を切り開いてほしいという思いを込め、「感謝は人の心を開き、運命を開く」という言葉を生徒たちに伝えました。

われわれ保護者も生徒たちや学校、そして地域と関われる時間に感謝し、生徒たちの活動や学校の方針を支援し、応援、協力していきたいと思っておりますので、今後ともPTA活動へのご理解をお願いいたします。

「思いのままになる」

校長 亀井 隆之



PTAの皆様には、日頃の教育活動に対し、温かいご理解とご支援に深く感謝を申し上げます。

本校は標高22m「如意が丘」に建っている。如意とは仏教用語で「思いのままになる」という意味で、何という頼もしい場所であろうか。学校から見える「富山湾」はとても綺麗で、世界で最も美しい湾クラブに加盟している。海に架かる「新湊大橋」越しの「立山連峰」は季節を問わず絶景であり、写真マニアたちが撮影に集まる。新しい道の駅「雨晴」には多くの人が訪れ賑わっている。「岩崎ノ鼻灯台」は恋する灯台として船の安全を見守っている。「十間道路」は海へ向かった桜並木で、早春には大変見応えがある。二上山を駆ける「万葉ライン」には「仏舎利塔」や「平和の鐘」があり、ふるさと富山の平和を願うドライブコースとなっている。

ここに国府があった。天平時代（七四六）「万葉集」の大臣家持は、国司として赴任し五年間で多くの歌を詠んだ。鎌倉殿の追捕を受けた義経と弁慶が奥州平泉へ逃げる途中、雨を晴らした「義経岩」、弁慶の見事な機転劇「如意の渡し」伝説は有名である。室町期から真宗王国を象徴する大伽藍の「勝興寺」や「気多大社」など、重要な文化財も数多い。江戸時代（一六八九）「奥の細道」の松尾芭蕉が歩き詠んだ由緒地としても指定されている。言い尽くせないが、素晴らしい自然、歴史、文化に恵まれた環境にある。

現在、コロナ禍や国際情勢により、教育活動のメインである国際交流は到底できない。海外を体験できないばかりか、日本やふるさとの良さも実感できない。こんな時だからこそ、生徒の皆さんには恵まれた環境のもと、思いのままに自己をしっかり確立して、かけがえのない友情を育んでほしい。これからは学習活動や学校行事等を前へ進め、グローバルな視点で社会に貢献できる人材の育成を目指したいと思う。「思いのままになる」を願い、毎日廊下から海を見たい。

Our New Stage

| | | | |
|---|---|---|---|
| 私 | た | ち | の |
| 新 | た | な | る |
| 段 | 階 | へ | |

第75回 体育大会

令和4年6月9日(木)

● 体育大会結果

| | | |
|---------|-------|-------|
| 総合 | 1位 紫団 | 2位 赤団 |
| 競技 | 1位 紫団 | 2位 赤団 |
| 応援 | 1位 青団 | 2位 赤団 |
| デコレーション | 1位 赤団 | 2位 紫団 |

【紫電一閃(紫)】団長

33 H 澤 恭士郎

自分は団長として「消毒の徹底」と「距離の確保」の2つの感染対策を練習の時から常に考えて行動していました。例年とは違った形での体育大会なので、成功させることができるかとても不安でした。しかも自分はその

前に立つてまとめたりするのが初めてでどうしたら良いかわかりませんでした。しかし、団長という自覚を持ち、何事にも前向きに取り組み、団リーダーのみんなとコミュニケーションを常にとることを大事にできました。すると、だんだん団の雰囲気も動きも良くなり、互いに協力しあえる団になりました。「四冠」という目標には惜しくも届きませんでした。紫団は競技の部、総合の部で一位を取ることができました。紫団全員が一致団結した結果だと思えます。最高の体育大会、成長の場を作っ



紫電一閃(紫)

【百花繚乱(赤)】団長

32 H 飛弾 生琉

今年の体育大会では、感染対策を考慮した上で、先生方をはじめ、

生徒全員が協力して開催することができました。最も時間をかけて力を入れたのが応援でした。毎日練習をし、試行錯誤の連続でしたが、みんなが協力し合い他の団を含め互いを高め合うことで最高の応援を上げることができました。団長を務めたことで、周りを見る力や先のことを考える力などたくさん力を身に付けることができました。最後の仕事として赤団のはちまきを回収しました。その時に、はちまきを袋に入れるとき「楽しかったです」や「ありがとうございます」などの言葉を掛けられました。私はそれを聞いて、みんな本気で挑み、本気で楽しんでくれていたことに初めて気づかされました。

最後の体育大会にふさわしい団のメンバーや最高の思い出を作り上げることができたこの伏木高校にとっても感謝しています。

みんなで手にした一位

赤団デコ長 32 H 片田唯宇衣

団名が「百花繚乱」なので鳳凰を描きました。デコ長として指示したり、係の皆をまとめる事は普段経験しないので緊張しましたが、クラスの友達から応援してもらったり、団リーダーの皆が手伝いに来てくれたりしてとても勇気づけられました。

パネルのデザインを決める時もクラスの皆が協力してくれて、



百花繚乱(赤)



「団名の『百花繚乱』に『花』の文字があるから花を描いて欲しい」、「赤団の華やかなイメージや楽しい雰囲気を表現して欲しい」という意見から、文字の色をグラデーションで表現し、鳳凰を大きく描く工夫をしました。クラスや団リーダーの皆、先生や一、二年生の皆の協力のおかげで赤団がデコレーションの部で一位をとる事ができました。最後の体育大会を笑顔で終えることができました。本当によかったです。



【飛翔蒼嵐(青)】団長

31H 西元 倭偉

今年の体育大会で、保護者の観覧ができるようになりました。体育大会を実現させてくださった先生方や、感染対策やルールなどを守ってくれた生徒全員にはとても感謝しています。

私たちの団では、応援にとても力を入れて活動しました。最初の頃はみんな不安な気持ちでいっぱいでした。ですが、体育大会が近づくとつれ、みんなの気持ちが強くなり、体育大会で応援の部一位を取ることができました。この賞をとれたのは青団一人ひとりがんばってくれたおかげです。青団のみんなにはとても感謝しています。



飛翔蒼嵐(青)

最高の思い出

青団応援団長 31H 片山 月碧

今回の体育大会は新型コロナウイルスが少し落ち着いてきたということもあり、競技中や応援中はマスクを外してよいとの

ことでした。自分で応援団長に立候補したもののとても不安で仕方なかったです。団員のみでの練習の際、全くダンスやセリフが覚えられず、メンバーに迷惑をかけていました。家で練習し、ダンスを覚えたのですが、次は声量が問題でした。毎日のように友達や先生に注意されていたので、本番では見返す気持ちで臨みました。すると本番では、ダンスが完璧にでき、セリフも誰よりも大きな声で言えました。今までの努力が実り、応援の部で優勝できました。

応援団長を務めることで、普段の生活ではできない体験ができ成長できたと思えました。最高の思い出です。

体育大会を終えて

前期生徒会長 33H 梅澤 遼多

私は前期生徒会長選挙の際に四つの公約を掲げ、その一つとして体育大会の成功を掲げました。

その際演説で述べたように、今大会の実施に至るまで、生徒会のメンバーで前年までの生徒会主催競技の反省点を運営側と参加した生徒の視点から出し合い、更に生徒が盛り上がるようにするにはどうしたらよいか話し合い、コースの内容を拘り、競技がスムーズに進行できるように様々な策を講じました。その甲斐あって予想外のトラブルで競技のスタートは遅れましたが、結果的に競技は盛り上がり、生徒の笑顔を多く見ることができました。生徒会長として非常に光栄なことであります。

私の任期は残り少ないですが、今回のように生徒会のメンバーと議題を話し合い、必ずや生徒の皆さんの要望を実現できるように尽力して参ります。



ボランティア活動

100万人のゴミ拾い

5月3日を「ゴミの日」として、全校生徒に伏木万葉埠頭のゴミ拾いを呼び掛けたところ、96名の生徒が参加し、地域の清掃活動に貢献しました。

参加生徒の言葉

22H 秋元 愛理

参加する前は、海岸にゴミは落ちていなくきれいだろうと思っていましたが、実際はゴミが沢山落ちていました。今後は、ゴミ捨てをしないようにして「ゴミを減らしていきたいです」。

22H 室崎 羽南

朝早くからの活動だったので参加する人は少ないだろうと思っていましたが、中学生や地域の方々など多くの人が参加しており、ここをよりよい場所にするという思いの一体感を感じました。清掃後は達成感があり、また参加しようと思えました。



三学年
高大連携事業講演会

6月3日(金)4限「総合的な探究の時間」に高大連携事業講演会を実施しました。



富山福祉短期大学教授 齋藤 望先生をお招きし、「SDGsの観点から世界を考える」というテーマで出張授業をしていただきました。

世界の状況やSDGsの内容を知り、その多くの目標の中から自分が気になるものは何か、大人になるときにどんな未来になっていたら良いか、その未来のために自分たちができることは何かを考え、話し合いました。

参加生徒の言葉

・この目標を達成するには一人では絶対に到達することはできないので、自分から情報を収集して理解することや、発信することが大切だと思った。紹

介された3つの目標の中で5番のジェンダー平等の実現をしてほしいと思いました。

・地域格差や貧困問題があることは知っていても、実感できなかったが1000人村では一人しか大学の教育を受けられないことや、20人以上が栄養のたりていない食事であるなど、人数を減らして考えるところでも身近に感じられました。自分もそうだったらと思うと大変な問題だと感じました。ゴミを捨てるなど自分にもできる簡単なことから始め、「知っている」から「できる」にしていきたいと思った。

教育懇談会

5月14日(土)、令和4年度教育懇談会が本校第二体育館にて行われ、三年ぶりに全学年そろって保



護者に出席していただきました。

初めに、PTA・教育振興会・育成会定期総会があり、会計報告、PTA役員改選、事業報告、事業計画が審議されました。その後、学年別研修会があり、子供たちの学校での様子や進学に関する情報を得る機会となりました。

高岡地区PTA
指導者研修会

PTA副会長 宮川 裕之
6月16日、高岡市生涯学習センターにて生徒指導研修会が開催されました。本校からは明石PTA会長、副会長2名と亀井校長、PTA係の教諭1名の5名で参加させていただきました。指導者研修会では大門高校、新湊高校、氷見高校の3校から研究発表があり、PTA活動の在り方について意見交換がありました。コロナ禍の中、学校と家庭の連携がととても大切であること、また今の状況下に合ったPTA活動の柔軟さを求められています。

引き続き、富山短期大学健康福祉学科の関好博先生より「傾聴と共感の姿勢がかなえられること」コミュニケーションが持つ力」と題し、講演会が開かれました。言葉の伝え方ひとつで心が救われることを学び、言葉の大切さを改めて学ぶ機会となりました。

夏の「さわやか運動」

6月14日から17日の4日間、夏の「さわやか運動」が実施されました。場所は太田小学校、伏木小学校、古府小学校、伏木中学校、本校の各玄関前や通学路で、生徒会、校風委員、PTA合同でのあいさつ運動が行われました。

【参加保護者からの声】

・普段見ることがない子供たちの通学の様子を見ることができ、いい経験となった。
・朝早くよりさわやか運動の担当の生徒さんたちが大きな声で声かけていたのがよかったです。また、コロナで登校できなかった時期を思うと、笑顔で登校する子供たちを見て、普通の生活が戻りつつあることに喜びを感じました。



・明るく元気な生徒、朝早いからかテンションが低い生徒、いろいろいるが、皆、こちらの目をみて挨拶してくれ、「さあ、今日一日頑張ろう」と思えた。

吹奏楽部 定期演奏会

日時 8月7日(日)
午後2時 開演
会場 高岡文化ホール
チケット 3000円
・琴部、ハーバライツとのコラボをどうぞお楽しみください。

行事予定

- 7/20(水) 一学期終業式 中国オンライン交流
- 7/23(土) 職業人講話
- 7/25(月) 26(火) 三年生研修旅行
- 7/30(土) 伏木港まつり
- 8/7(日) 吹奏楽部定期演奏会
- 9/1(木) 二期期始業式
- 9/30(金) 文化祭
- 10/4(火) 高教研大会
- 12/21(水)・22(木) 保護者会
- 12/23(金) 二期期終業式
- 1/10(火) 三期期始業式
- 3/1(水) 卒業式
- 3/24(金) 終業式

あとがき

総務委員会では、PTA会報誌を7月と3月の年2回発行します。多くの方に手に取ってもらえるよう、今回はフルカラーで写真を多く載せてみました。親子の会話のキッカケに活用してもらえれば嬉しいです。

(総務委員会 一 回)